

ステップ4 知っておきたい就職準備の基礎知識

○ 就職情報の読み方・使い方

就職活動の手段、就職情報のメディアは、どんどん多様化しています。ハローワークの求人票、求人情報誌、新聞やチラシの求人広告、インターネットの就職情報サイト、企業のホームページ、就職面接会など、さまざまな就職媒体の情報の特徴をよく知り、効果的・効率的な就職活動をしましょう。

ハローワークの求人票

特色は…仕事の内容から労働条件、社会保険の加入状況まで、応募時に必要な基本的事項が含まれています。全国・全業種・全職種共通様式なので、比較検討もしやすく、ハローワークに出向いて求人票を見る場合、わからない点があれば、窓口の担当者に企業へ問合せをしてもらったり、遠隔地の求人票を見せてもらったりすることもできます。一般のハローワークでは専門職の求人はあまり多くありませんが、人材銀行（全国 12 か所に設置）では、専門・技術職に限定して探している人のために、経験・知識などの要件について、より詳しい別様式の求人票を使用しています。いずれも利用は無料です。

こういう人に…就職活動を初めてする人、雇用保険の受給のためにハローワークに定期的に出向く人、相談しながら仕事を探したい人、正社員の求人もアルバイト・パートの求人も両方見たい人、近県や全国各地の求人を探したい人、就職に際して公的支援措置を利用できる可能性がある人（障害者手帳を持っている人など）。

こんな点に注意…地域、曜日、時間帯によって所内が非常に混雑する場合があるので、ゆっくり求人票を閲覧したい場合はできるだけ空いている時間帯を選ぶとよいでしょう（一般的には、午前中のほうが比較的空いています。雇用保険関係の説明会が開催される定例日などは特に混雑することが多いようです）。

原則としてサービス利用可能時間は 8 時 30 分から 17 時 15 分ですが、一部、平日夜間及び土曜日にも求人票の閲覧ができるハローワークもあります。

求人情報誌

特色は…アルバイト向け、技能者向けなど、ターゲットを絞った編集がされていることが多く、通常は有料。書店、コンビニ、駅売店などで手軽に購入でき、自宅でゆっくり目を通すことができます。職場の写真、担当者のコメントなど、具体的な情報を提供する工夫がされている場合もあります。職種にもよりますが、若者向けの求人が多く、年齢が上がるにつれて情報が少なくなる傾向があります。

こんな人に…気が向いた時に一人でゆっくり情報を見たいという人、自分で情報の内容を確認めたり、企業にアポイントメントを取ったりできる人、希望の職種や業種が比較的はっきりしている人。

こんな点に注意…一度に大量の部数が発行されているので、企業や職種によっては応募者が集中し、募集がすぐに締め切られる場合があります。企業独自の職種名や専門用語が使用されているケースなどでは、自分が受けたイメージと実際の仕事との間にギャップが感じられる場合もあるので、分からない点があれば問い合わせる時などに求人企業によく確認することが大切です。一冊当たりの単価は高くはないものの、長期間多種類を購入すればそれなりの出費。

求人広告

特色は…新聞・雑誌の求人欄や折込みチラシなどのメディアで、無料で見ることができます。限られたスペースで情報量も必要最小限であることが多いので、求人企業に問い合わせる手がかりとして利用するとよいでしょう。

こんな人に…情報収集のために特別に割ける時間がない人、募集している企業の所在地でもとりあえず知りたい人。

こんな点に注意…メインの情報源として頼るには情報量が十分とは言えないので、自分で追加情報を収集するつもりで。掲載が不定期の場合、見逃さないよう日頃より気をつけてチェックしておくことが必要。掲載された刊行物の発行回数などにもよりますが、広告の有効期間は比較的短いものと思ったほうがよいでしょう。

インターネットの就職情報サイト

特色は…ここ数年で急速に普及・発展し、就職情報の中心的位置を占めるようになったメディア。ネット接続パソコンが利用できれば、いつでも自由に情報を見ることができる便利さが最大のメリット。多くの場合、追加情報の請求や、応募もネット上でできるようになっています。さまざまな情報サイトが立ち上げられているので、それぞれのサイトの得意分野（業種・職種・雇用形態など）をよく比較して、自分に合った情報を利用するとよいでしょう。「ハローワークインターネットサービス（<http://www.hellowork.go.jp/>）」では、ハローワークのサービスと組み合わせてフォローしてもらうこともできます。また、「しごと情報ネット（<http://www.job-net.jp/>）」では、パソコンのほか携帯電話からもアクセスすることができます。

こんな人に…インターネットを使い慣れている人、平日の昼間ハローワークなどに出かける時間が取れない人、自分で情報の内容を確認めたり、企業にアポイントメントを取ったりできる人。

こんな点に注意…たくさんの情報の中から自分に合ったものを選択できるよう、情報の読み取り能力が求められます。情報関連職種、派遣などの求人が多く、現業関係は比較的少ないようです。また若者向け求人のウエイトが高い傾向があります。

企業のホームページ

特色は…従来の求人広告に代わり、自社のホームページ上に採用情報のページを設ける企業が増えています。新規学卒者向けのほか、通年で中途採用のコーナーを設置している企業もあります。各社とも、自社に明確な関心を持つ応募者を集めることを期待し、人材獲得のための情報提供に工夫を凝らしているので、業界研究・仕事研究のためにも利用してみるとよいでしょう。

こんな人に…志望する企業・業種などがはっきりしている人、企業の業務内容や業績を調べたい人、志望業種・職種の最近の状況についてイメージをつかみたい人。

こんな点に注意…企業の情報開示や情報提供への取り組みは一律ではないので、企業により、得られる情報には差があります。企業ホームページは基本的には企業の広報・PRの一環であることを認識しておくことが必要。

就職面接会

特色は…就職面接会は、本来、情報収集活動ではなく採用面接の第一歩ですが、たとえ志望する企業が参加していない面接会であっても、数多くの企業と一度に接触して情報収集ができる貴重な機会となります。企業の資料を入手し、採用担当者から直接具体的な話を聞き、知りたいことに答えてもらうことができます。興味の持てる企業があれば、その場で面接にトライすることもできます。参加自由で情報提供型の大規模なイベントから、特定の業種・職種・地域などに範囲を絞ったもの、事前予約制で採用選考を主体とした面接会まで、いろいろなタイプのものが開催されています。

こんな人に…とにかく採用面接を受ける機会を少しでも多く持ちたい人、企業の担当者から話を聞きたい人、いろいろな企業を比較検討したい人、特定の企業にはこだわらないが、Uターンしたい、IT業界で働きたいなど、ある程度目標が絞られている人。

こんな点に注意…いわゆる人気企業、希望者の多い業種や職種の企業には応募者が集中するので、積極的に要領よく行動することが大切。自分のめざす企業が参加していなくても、思いがけないところに自分に合う企業があるかもしれないので、時間の許す限りいろいろな企業の話聞いて、情報収集に努めましょう。また、単なる情報収集の予定でも、面接を受ける場合に備えて、必ず履歴書の用意をおきましょう。応募者が集中する企業は、用意された資料が早い時点でなくなったり、受付が締め切られたりすることがあるので、時間的ゆとりを考えて参加することが必要。

→ チェックシート⑦ 希望する職業について分析してみよう (p 58)

→ チェックシート⑧ 希望する業界の状況について調べてみよう (p 59)

→ チェックシート⑨ 自分の求職条件と志望企業の求人条件とのバランスをチェック
(p 60)

○ 就職活動のポイント

応募の段階で

・ 自分の希望条件との適合性のチェック

希望を 100 % 満たす求人を見つけるのは難しいものです。できるだけ選択肢が広がるように、自分にとって必須という条件以外は、ある程度の幅を持って柔軟な判断を。

・ 求人情報からわからないこと（確かめる必要があること）のリストアップ

電話での問い合わせや面接時に確認が必要なことがあれば、あらかじめメモを。

・ 連絡先、受付期間、必要書類等の確認

準備が手順よく進められるよう、応募の期限や必要な書類などをよく確認。

・ 採用選考の内容に関する確認

実技試験の有無など選考方法についてチェックし、特別な準備が必要か確認。

・ アポイントメントを取るための電話は相手の都合を考えて適切な時間に

できるだけ会社の終業間際や相手先の忙しそうな時間帯（例えば外食産業の店舗であればランチタイムなど）には電話しないように配慮を。

・ 問い合わせを行う際は必ずメモの用意

大事な事項を忘れたり、何度も問い合わせたりすることのないよう、電話をかけるときには必ずメモをとれるよう準備を。

・ よいと思う求人があれば、すぐ行動

応募数が多ければ、募集期限前でも受付終了となる場合もあるので、とりあえず早め早めに行動することが重要。

履歴書を作成するとき

・ ていねいに、正確に書く

履歴書など応募書類は採用側の第一印象を左右します。ていねいな字で正確な情報が伝わるように心がけましょう。

・ 古い履歴書をいつまでも使わない

日付の古いもの、写真が現状と相当異なるものなどは採用側の印象がよくないので、注意。

・ 就職活動中は履歴書を多めに用意して携帯する

応募の締切りが迫っているなど急ぎの場合にもすぐ対応できるように。特に就職面接会に参加するときは、会場で面接を受けたい企業が予定外に増える可能性があるので、予備の履歴書を持参。写真は多めに焼き増ししておくといでしょう。

・ 企業別書類は、応募する求人内容との関連性に注意

履歴書以外の応募書類（職務経歴書など）が求められている場合は、その求人内容（業種、職種、仕事内容など）に応じたアピールポイントを盛り込むようにしましょう。

面接のまえには

・日時、場所、交通手段、所要時間、持参する書類などのチェック

求人票や電話の問合せなどで確認した面接の要項を再度チェック。遅刻は厳禁。指定された場所をよく確認し、交通手段と所要時間、最寄駅からの道順などを地図やインターネットなどで確かめておきましょう。履歴書などの書類に不備や記入漏れがないかなども再度確認を。

・応募先企業に関する知識の確認

面接を受ける企業の概要や求人内容について復習を。企業をよく研究して予備知識を持つことで、企業側のニーズを理解し、ゆとりのある応答がしやすくなります。

・経歴・志望動機など自分自身についての確認

履歴書や職務経歴書に記入した自分自身の職業経験、スキル、志望動機などについて再確認し、限られた時間で的確にアピールできるよう、考えをまとめておくことが重要。

・面接時確認しておきたい事項についての整理

募集要項や求人票ではわからなかったことで、確かめておきたい自分にとって重要な事項があれば、整理してまとめておきましょう。

面接のときには

・身だしなみなど身の回りのチェック

限られた時間で行われる面接の際には、第一印象が特に大切。最初にマイナスの印象を持たれてしまうと、回復するのがたいへんなので、第一印象を左右する身だしなみには十分気を配って、面接の場にふさわしい清潔な服装を心がけましょう。

・あいさつはていねいに

面接の最初と最後には、きちんとあいさつをするように心がけましょう。面接会場への出入り、姿勢、動作などの全体的態度もさりげなく観察されているので、面接本番前後の待機時間も含め、気を抜かずに落ち着いて行動を。

・わかりやすく意欲的なアピール

面接では、短い時間の中で、どれだけわかりやすく、簡潔かつ正確に自分自身をアピールできるかということがポイント。自分の長所や能力を積極的に伝えとともに、新たな技能や知識が必要な場合には、進んで習得する意欲と熱意を示すように努めて。

・無理をしすぎず、誠意が伝わる対応

就職後長く勤務することを考えると、その場しのぎで無理をしたり、ごまかしたりしないことも必要。また、職歴に空白が多い場合や、短期間で何度も転職している場合などには、その理由を問われた時に、自分なりにきちんと誠意の伝わる説明ができるよう、あらかじめ考えをまとめておきましょう。

→ チェックシート⑩ 就職活動直前チェックリスト（p61）

○ 制度を上手に利用しよう

就職活動を応援してくれる制度や施策は、年々充実してきています。利用できる支援策は上手に使いこなして就職活動の味方にしましょう。

試しに働いてみたい職場があるとき

若年者トライアル雇用事業

・どんな制度？…

ハローワークの紹介で35歳未満の若年者を短期間（原則3ヶ月）雇用し、その間仕事に必要な指導や教育訓練を実施する事業主に対し、奨励金を支給するもの。

トライアル雇用終了後の本採用を企業に義務づけるものではありません。

・メリットは… 事業主にとっては、採用候補者の能力を時間をかけて見極められます。

若年者にとっては、実際に賃金を得て働きながら、企業の求める能力・技術を知り、本採用につなげる可能性を広げることができます。

・利用するには… ハローワークの窓口でご相談ください。

実務に即応できる職業能力を身につけたいとき

日本版デュアルシステム……働きながら学ぶ・学びながら働く……

・どんな制度？…

企業での実践的実習訓練と専門学校・公共職業訓練施設等における座学（基礎技能の習得を含む）とを一体的に組み合わせた教育訓練を行うことにより、若年者を一人前の職業人に育てる新たな人材育成システム。平成16年度よりスタート。訓練期間や実施施設などが異なるいくつかのコース類型が設定されています。

例えば…ホテル業での就職に向け、週3日は専門学校などで接客マナーなどの講習、残りの週2日は実際にホテルで仕事、という訓練により、実践的職業能力を養成。

・利用対象は？… 就業に向けて就業活動を続けており、就職のために職業訓練を受ける意欲のある若年者（概ね35歳以下）。

・コースの類型…

①公共職業訓練を利用する場合

◇短期コース：専門学校などの民間教育訓練機関で講習を受けながら企業実習を行う標準5ヶ月間のコース（無料）。17年度は約26,500人が受講し、就職率は71.9%。

申し込み⇒ハローワーク

◇長期コース：独立行政法人雇用・能力開発機構の職業能力開発大学校（2年）、職業能力開発促進センターと都道府県立職業能力開発校（1年）で座学を受けながら、企業実習、OJTとして有期パートで就業する1～2年のコース（無料～約39万円（年間））。17年度に開始した長期訓練は28都道府県47施設57コース（626）で実施中。

申し込み⇒それぞれの訓練校

②専門学校など民間教育訓練機関を利用する場合

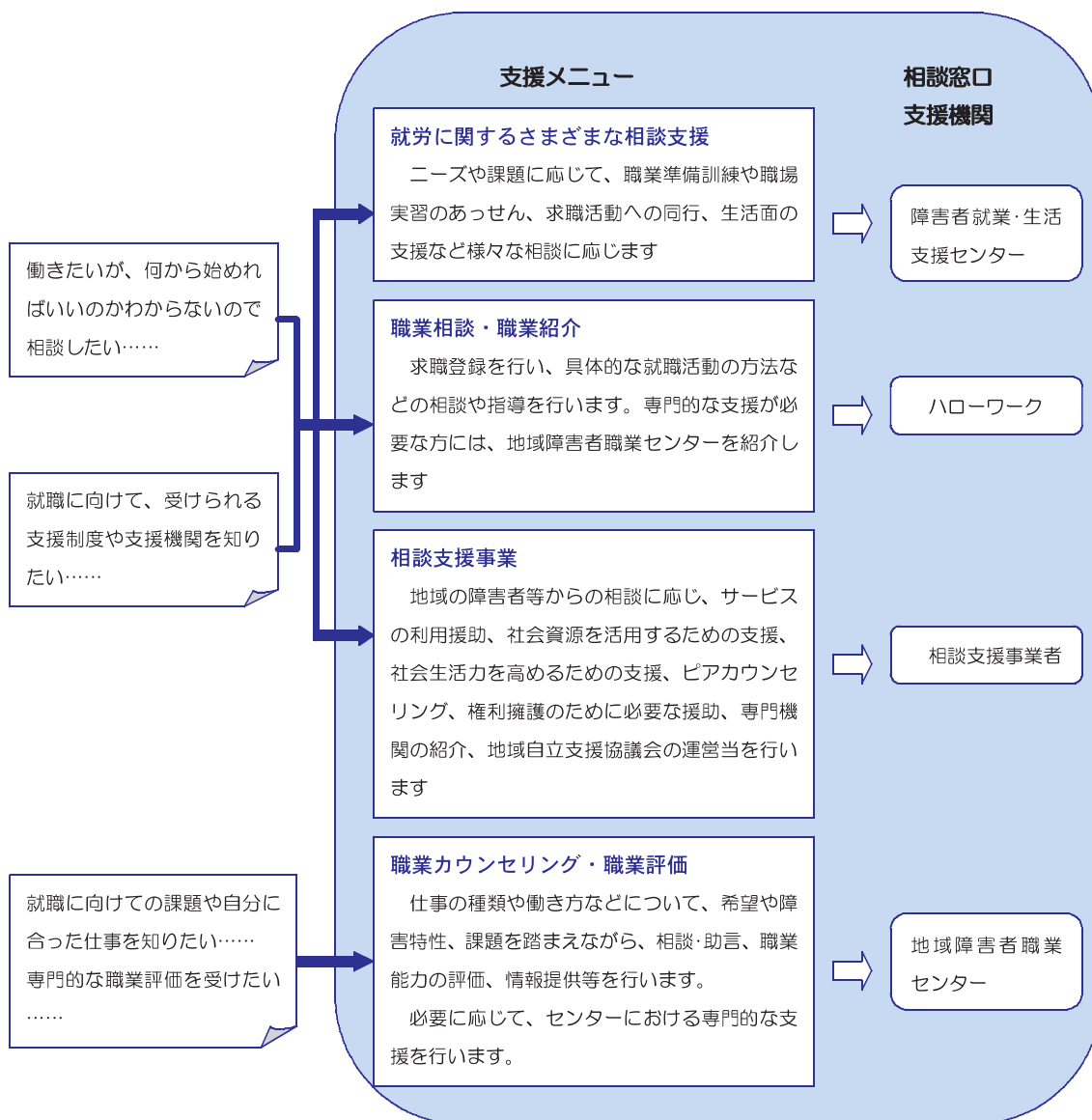
専門学校など民間教育訓練機関で座学を受けながら企業実習、OJTとして有期パートで就業する1～2年のコース。専門学校等が生徒を直接募集するもので費用は各学校により異なる。申し込み⇒それぞれの専門学校

○ 職業リハビリテーション・サービスを上手に利用しよう

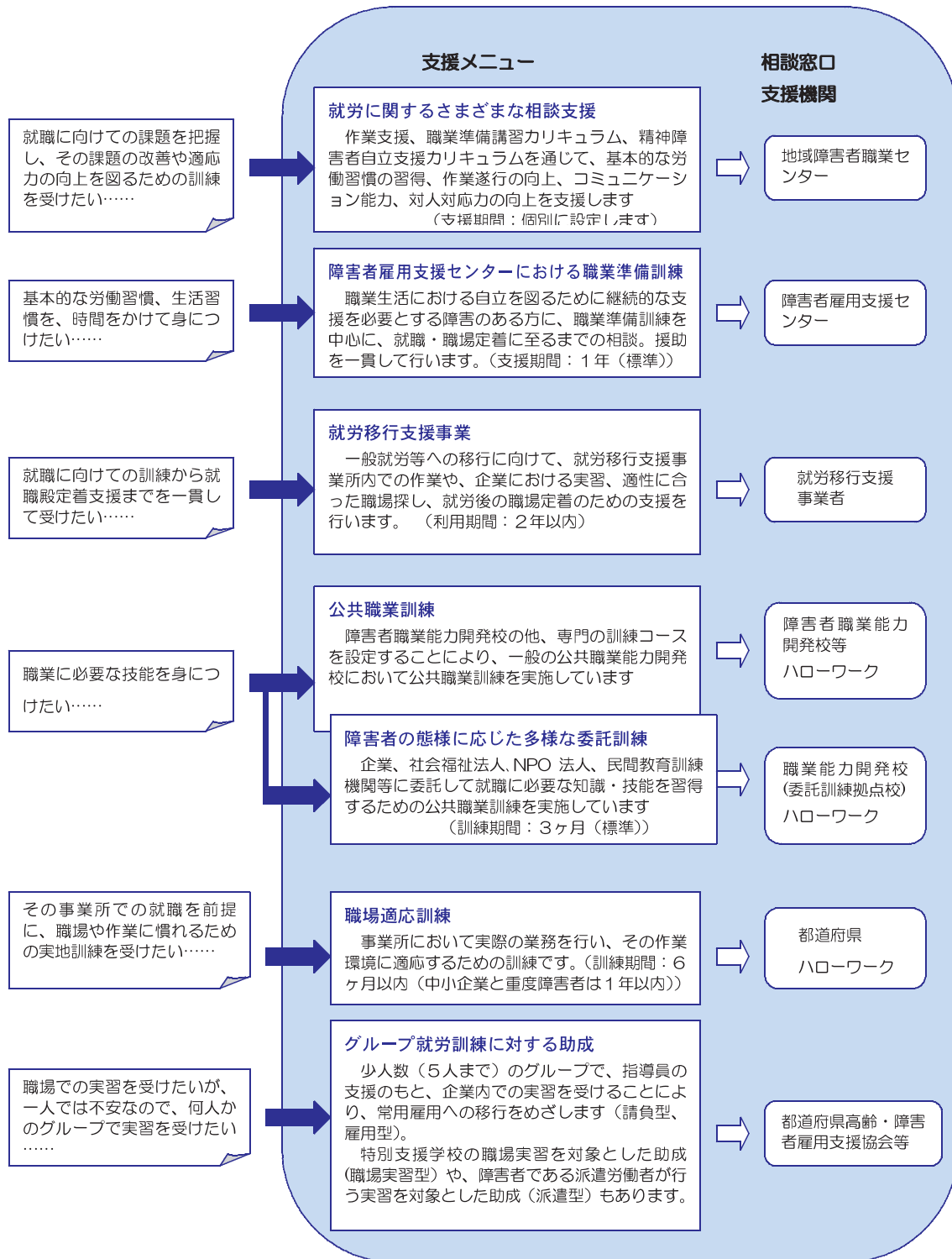
障害者の就職活動を応援してくれる制度や施策も、年々充実してきています。障害者の就職や職場適応・定着、離転職などの支援をするサービスを職業リハビリテーション・サービスといいます。さまざまなサービスの特徴をよく知り、効果的・効率的な就職活動をしていきましょう。利用できるサービスは上手に使いこなして就職活動の味方にしましょう。

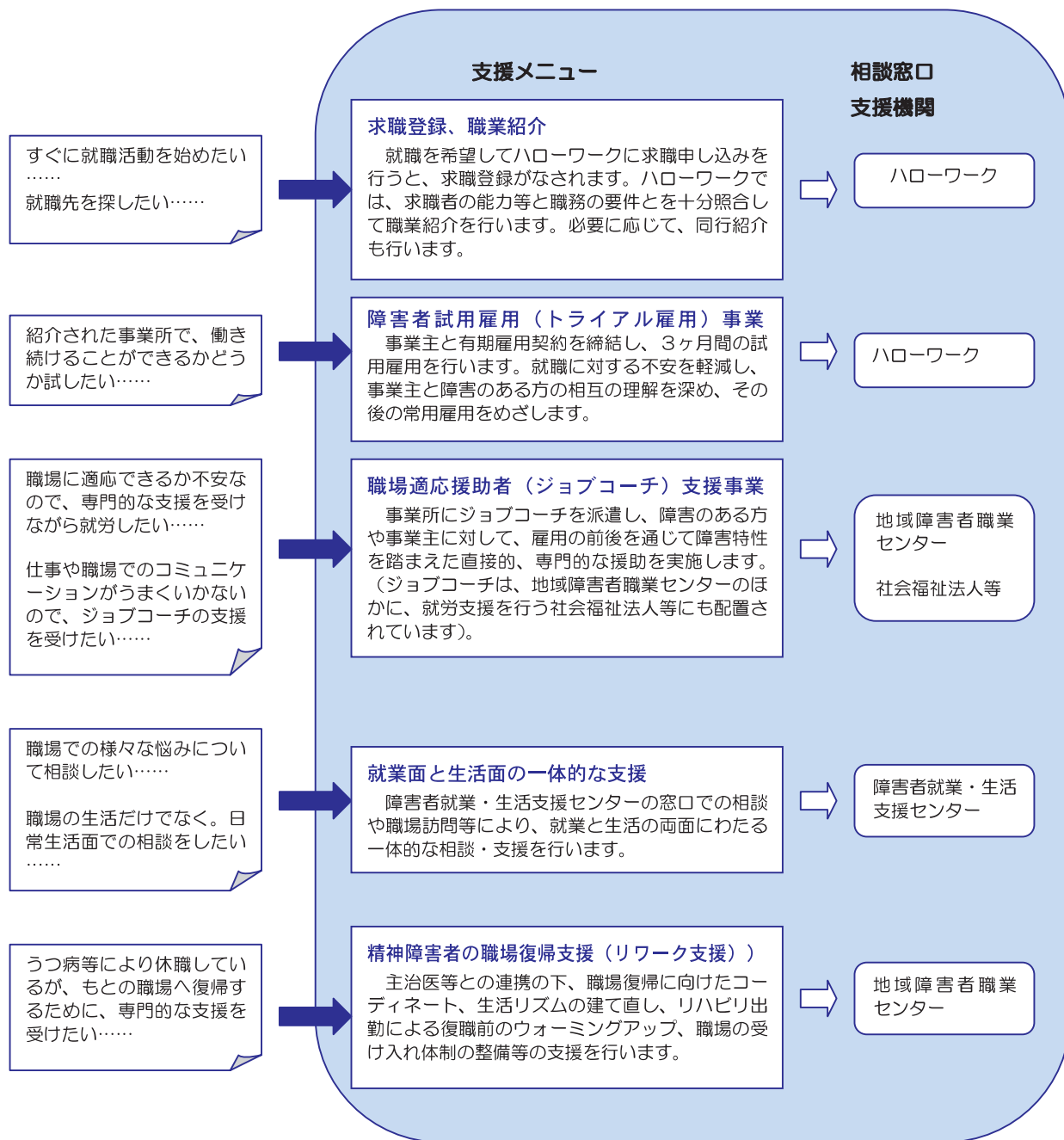
（厚生労働省 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構 「事業主と障害者のための雇用ガイド 障害者の雇用支援のために 平成 19 年 （p.42-45）」より）。

就職に向けての相談



就職に向けての準備、訓練





離職・転職時の支援、再チャレンジへの支援

